

令和元年7月1日

学校法人 ぜんりょう学園  
専門学校 北九州自動車大学校  
校長 籠谷 正 則

## 「自己評価及び学校関係者評価結果 平成30年度版」 報告

学校法人 ぜんりょう学園 専門学校 北九州自動車大学校は、平成30年度における自己点検・自己評価を実施したのち、学校関係者評価委員会を令和元年6月17日（月）に開催し、各評価項目についてまとめた結果を学校教育法、同法施行規則並びに専修学校設置基準における学校評価に関する規程に基づき「自己評価及び学校関係者評価結果 平成30年度版」として、ここに公開いたします。

学校関係者評価委員会のご意見を真摯に受け止め、本校の教育と運営についてさらなる向上を目指し、教職員一同、努力して参ります。今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 学校関係者評価委員名簿

氏 名	所 属 先
椛島 大希	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 北九州事務所所長
金丸 孝弘	株式会社ジャパン三陽
成重 哲	株式会社スズキ自販福岡 小倉営業所
宮本 達也	株式会社グリーンライン保険サービス
樺枝 浩志	本校同窓会副会長

(1) 教育理念・目標・人材育成像

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
1-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	理念は学園創立者の建学の精神「自主独立と新開拓者精神（ノヴァフロンティア）」として示され、この精神に沿って、教育目標・育成人材像は、自動車整備に関する学術理論実施技術を指導教育し、人類社会の福祉に貢献する有能な技術者を育成することと明確に学則に定め、学生便覧等で教職員及び学生に周知徹底している。	4	ディプロマポリシーを作成することにより育成人材像をより明確化し、本校ホームページに公表する予定である。	
1-2 学校における職業教育の特色は何か	実践的な自動車整備士を育成するため、実務経験豊富な多くの教員を配し、また、企業と連携した実習・演習を実施している。さらに、広い視野を持った自動車整備士を育成するため、ビジネスマナーやコミュニケーション能力を高めるソーシャル検定（JAMCA）、運行管理者や福祉車両取扱士などの資格取得に取り組んでいる。	4	企業と連携した実習・演習をさらに強化して行きたい。また、有用な社会人となるために必要な「社会人基礎力」の養成にも努めたい。	コミュニケーション能力は、社会に出たとき、とても重要な要素となる。高い技術や知識があっても、人間関係で潰れてはもったいない。
1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	社会のニーズである高校生から見た魅力ある学校づくりと、進化する自動車技術に対応できる人材を育成するために、平成 30 年度にカリキュラムとそのシラバスについて全面的に見直しを行った。なお、本カリキュラムは、平成 31 年度より実施予定である。また、入学者数減少に伴う長期的な将来構想については検討を行っているが、その構築には至っていない。	3	魅力ある教育と業界で必要とされる技術者養成をさらに推し進めるため、全科目のシラバスを公開し、社会的評価を上げたい。また、本校の長期的将来構想については社会情勢を踏まえ、検討を重ねたい。	

1-4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	学校の教育目標や育成人材像については学生便覧に明示し、学生や保護者に周知している。また、学校の特色や現状での将来構想については学校新聞や本校ホームページに公開している。	4	現在の取組を継続する。	
1-5 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	年に2回、定期的に自動車関連企業からのニーズをヒヤリングし、その結果をシラバスに反映させることにより、育成人材像を改善している。また、インターンシップや企業と連携した実習・演習を実施することにより、教員及び学生は業界のニーズを肌で感じ取っている。	4	年々企業との連携が密になっており、様々な機会を設け、成果ある教育活動に発展させたい。一級4年生にはインターンシップを実施している。また、現在、1年生は希望者のみ、2年生は受入れ可能な企業へ依頼してインターンシップを実施しているが、その輪をさらに広げ、低学年から実践教育を通じて学生自身が企業のニーズを汲み取れる環境を整備したい。	インターンシップを通じて今後自分がどういう仕事をして行くのかを知ることが、とても良いことだと思う。

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・育成人材像を明確化するため、ディプロマポリシーを作成・公開し、これを教員・学生に周知徹底したい。
- ・将来構想については、年度ごとの計画が立案遂行され、教職員には内容の周知を行っているが、長期的将来構想についても検討を重ねたい。
- ・全科目のシラバスを公開し、業界の意見を聞きながら、社会のニーズを更に取り入れた授業内容に改善して行きたい。
- ・教育目標や育成人材像は、社会のニーズとともに大きく変化していくと考えられる。自動車のAI時代に向けた整備士を養成する教育機関として、監督官庁や整備業界の動向を注視しながら更なる教育内容の改善を図って行く。

## (2) 学校運営

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
2-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	学校の目的、目標に基づいた学校運営方針は明確である。教務課・学生課・学事課・進路支援センターを含め、毎年度初めに目標が作成され、全教職員に認識されると同時に活動の基軸となっている。運用についてもスムーズに展開できている。	4	現在の取組を継続する。	
2-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	運営方針に沿った事業計画を策定し、実行のための予算を作成している。また、実習で必要な機器・備品の導入について、中・長期的な計画の立案を模索しており、一部の機器・備品については当年度中に導入した。	4	今後も取組を継続するが、さらに、実習等で必要な機器・備品についても、中・長期的に各実習担当者と検討したい。	
2-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	本校を含む学園全体の運営組織は、変更がある度に校務分掌一覧を配布している。意思決定機能は、学園では寄付行為により、また、学校では学則により明確化されている。学校運営に関する問題点とその改善策は、運営委員会（校長、副校長、学務部長、学科長で構成）で議論がなされ、定例の教員会議で諮られ、実行に移している。	4	今後も取組を継続するが、次年度は運営委員に事務局長、総務部長を正式に迎え入れ、経営側や事務担当者側の意見も改善策に反映させ、より有意義な議論や迅速な意思決定が行えるよう改善したい。	
2-4 人事、給与に関する規程は整備されているか	人事は就業規則により、給与は教職員給与規程、退職手当給与規程等により整備されている。	4	現在の取組を継続する。	

2-5 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	教務課、募集戦略室、進路支援センターなどの組織は整備され、それぞれの責任者が各部署とも連絡を取りながら意思決定を図っている。	4	現在の取組を継続する。	
2-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	業界への就職に関しては「就職斡旋規程」を、地域社会に対しては「学生心得」を遵守するよう学生を指導している。	4	現在の取組を継続する。	
2-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	ホームページ、及び SNS や動画配信サービス (YouTube) を利用し、日々のトピックスや最新のニュースを公開し、周知している。	4	現在の取組を継続するが、より迅速な情報提供や更新頻度の向上を実現させるために、人員体制や役割分担の見直しを検討したい。	今、色々な媒体で積極的に情報を発信しているのは良いことだと思う。
2-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	成績処理は本校独自のシステムを構築し、迅速かつ正確に行われている。また、出席管理についてもシステム化により、業務の効率化が図られている。このシステムにより教員間の情報共有が可能となった。	4	今後とも、現状に即したシステムの効率化を図って行きたい。	教員の方々がより教育に力を入れられるよう、出来る部分では今後も業務の効率化を進めて頂きたい。

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・教育の原点である教職員の向上心やモチベーションの勉強会を設け、個々は勿論学校全体としての成長を促して行きたい。
- ・責任者が中心となって、社会のニーズに合った実習等での必要な機器・備品の導入を中・長期的に検討して行きたい。
- ・情報システム・管理システム等の利便性が高まるにつれ、業務の効率化を図ることができる。従って、各システムの見直しをさらに進めたい。また、そのための人材を育成して行きたい。
- ・ホームページやSNSを活用し、日頃の教育活動に関する情報の配信をタイムリーにアップすることを心掛けたい。そのための人材育成を図りたい。

(3) 教育活動

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
3-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	教育課程の編成については、教育理念を踏まえ国土交通省の規程に沿って編成されている。また、実施方針等は運営委員会で策定し、教員会議に諮られている。さらに、「教育課程編成に関する規程」を定め、教育課程編成委員会の意見を反映させている。	4	定期的に見直しを行っており、特に課題を感じていないが、より良いものにしていくためには全教員が意見を述べやすい環境も整備したい。	
3-2 教育理念、育人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した時間の確保は明確にされているか	教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえたカリキュラムを編成し、教務課が主体となって各科目のシラバスを作成し、その中で学習時間の確保を明確にしている。なお、定められた時間内では学習到達目標に達しない学生については、補講を実施しレベル向上に努めている。	4	学習到達目標に達しない学生に対しては補講を実施しているが、放課後以外にも補講に充てられる時間を確保したい。	
3-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	各学科の目標達成に向けたカリキュラムは、国土交通省指定の教育科目を踏まえて体系的に編成されている。また、定期的カリキュラムを見直し、業界との格差が発生しないよう努めている。	4	科目数・教育時間数の多さから目標を十分に満足できているとは言えない学生もいることから、科目数・教育時間数の削減を検討したい。	
3-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	業界と連携した実習やインターンシップを実施し、キャリアアップに努めている。教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会での意見についても積極的に導入している。また、職業人としての能力を身に付けることを教育目標の一つとし、クラス担任を中心に学生指導を徹底している。	4	現在の取組を継続する。	

3-5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	企業及び業界団体から委員を迎えて教育課程編成委員会を年2回開催している。その中で、カリキュラムを見直し、シラバスに反映している。	4	現在の取組を継続する。	
3-6 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	一級4年生時にインターンシップを実施し、毎日、レポート提出を義務付けている。また、担当教員は定期的にインターン先を訪問し、学生を指導している。企業と連携し、1年生に対しては自動車点検実習、2年生に対しては故障診断実習を実施しており、シラバスにも明記している。	4	今後は一級生だけではなく、二級生もインターンシップを実施できるよう積極的に企業に受入れの協力をお願いして行きたい。	二級生へのインターンシップ実施を期待する。
3-7 授業評価の実施・評価体制はあるか	学生による授業評価は、前期と後期に年2回実施している。また、評価の低い授業担当者には校長が個人面談を実施し、授業のアドバイスをを行うことで改善を図っている。アンケート結果については、回覧という形で情報を教員間で共有できるようにしている。	4	授業評価を記入する学生の負担を軽減することも検討したい。	
3-8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	業界による外部評価は、学校関係者評価委員会により行われている。	4	学校関係者評価委員会にて評価をいただき、改善点を取り入れているので、特に課題を感じていない。	

3-9 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は、学則や教務規程によって明確に定めている。学生には学則及びその他関連規程を掲載した学生便覧を全員に配布し、オリエンテーション等で周知徹底している。	4	実習の成績評価は、教務規程の中に統合する方向で検討を進めている。	
3-10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	自動車整備士資格取得に向けたカリキュラムを編成している。その他、就職の際取得しておけば有利な資格については、夏季・春季休暇等を利用し、資格取得のサポートを行っている。必須資格と選択資格に分け、学生の能力・ニーズにより選択できる体制をとっている。	4	最終的な目標である自動車整備士資格取得については、より確実な合格に向けた対策とその方法を、議論を重ねながら確立して行きたい。	
3-11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	第一種養成施設の指定基準に準拠するため、資格や経験年数及び学歴等を満たした教員を確保している。また、一級未取得者であっても、上質な技術、高度専門知識資格を満たしている教員を確保している。	4	教員の一級自動車整備士の取得者は確実に増加している。今後は更なる人材育成のために、教員各個人の経験知や暗黙知と呼ばれるものをどう学生に伝えていくかということにも積極的に取り組みたい。	知識と経験について、成功例・失敗例を問わず、一つでも多く伝えてほしい。
3-12 関連分野における業界等との連携において、優れた教員（本務・兼務含む）を確保しているか	新規採用を行う際、3-11 を満足する教員を関連分野の業界から紹介いただき、人間性や教育に対する意欲などを面接で確認することで、若くて優れた教員を確保している。	4	現在の取組を継続する。	



<p>3-13 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか</p>	<p>整備振興会、マツダ、バンザイ、JAMCA などによる新技術研修は、毎年、順次教員が受講している。教員の指導力育成に関する研修は、JAMCA が主催して行われており、順次教員が参加している。</p>	<p>3</p>	<p>各講習を受講した内容を教員間で共有できる環境を整備したい。今後、若手教員の指導力育成に関する研修について、講師を招き学内で実施したい。</p>	<p>先端的な知識を教員が学び、それを噛み砕いて学生に紹介する、ということが必要なのではないかと思う。私も入社当初、学校で勉強した装置やシステムなどが現在のクルマでは全く使われていないと知り、戸惑った覚えがある。水平展開を行い、若手・ベテランを問わず指導力育成につなげていただきたい。</p> <p>新技術、先進安全技術は、各メーカー様々である。情報としては幅広く収集できれば、自動車（整備技術）に対する興味も高まると思う。</p>
<p>3-14 職員の能力開発のための研修等が行われているか</p>	<p>講師を招き、事務職員に対して学生募集に関する戦略について、定期的に指導をお願いしている。留学生や日本学生支援機構奨学金に関する講習会には必ず参加している。</p>	<p>3</p>	<p>事務職員に求める能力は多岐に亘る。今後とも継続して、能力開発に関する研修は積極的に参加させたい。</p>	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

### 課題と今後に向けての考え

- ・教員会議の場で意見を聞く機会は増えたが、全教員が意見を述べやすい環境を整備して行きたい。
- ・定められた時間内で学習到達目標に達しない学生に対して補講を行うが、放課後以外の時間を補講に充てられるよう調整したい。
- ・教員自身の一級自動車整備士の取得率が100%となるよう教員の意識改革を図って行く。また、授業の内容プラス人材育成に必要と思われる経験知や暗黙知と呼ばれる教員の知識を、いかに学生に伝えていくかを全教員で検討して行きたい。
- ・事務職員に求める能力は多岐に亘る。今後とも継続して、能力開発に関する研修は積極的に参加させたい。
- ・企業側からの講師派遣実習または企業のトレーニングセンターへ出向いての実習が、学生・教職員に良い影響を与えている。今後も企業側とさらに連携して充実した教育活動の推進を図りたい。

(4) 教育成果

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
4-1 就職率の向上が図られているか	学校に就職希望を提示した学生を対象に就職斡旋を行っている。面接指導や書類作成に関する指導はクラス担任がきめ細かく行い、就職率の向上を図っている。社会教養学を導入し、面接指導や書類作成の講義も実施している。	4	就職後のミスマッチによる離職を低減するため、就職内定を得た2年生、4年生に対し就活に求める要素を調査し、それを就職指導に反映させ、企業にもフィードバックしたい。	離職を低減させるという意味では、企業の話の聞いたり、資料を見るだけではなく、実際のその企業の現場を見ることも大事だと思う。企業の負担増も考えられるが、企業と学生双方にメリットがあるのではないかと思う。
4-2 資格取得率の向上が図られているか	自動車整備士の資格取得については100%合格を目指して、11月から3月まで放課後受験予定者全員に対して全教員が「居残り対策」を実施し、資格取得率の向上を図っている。具体的に、二級でのクラス編成は習熟度別に4クラスとし、定期的に筆記試験を実施し、クラスを入れ替えている。一級については年々難しくなっている。しかし、基本的傾向は変わらないので学生個人の理解度を把握した上で分野毎に理解させることに重点を置いている。	4	平成30年度の一級自動車整備士の合格率は100%であったが、二級自動車整備士の合格率は96.36%であった。二級についても全員合格を目指し、講習方法の改善に努めたい。さらに、授業中においても資格取得を意識した対策を検討したい。二級が不合格の場合、自動車整備士としての仕事に支障を来すため、卒業後、合格を目指して学校で受験勉強するよう指導したい。	

<p>4-3 退学率の低減が図られているか</p>	<p>退学の理由の多くは、欠席しがちになり学業不振に陥り退学している。従って、欠席する場合はクラス担任に理由を報告することを義務付け、欠席しないよう促している。成績不良の学生については、定期的にクラス担任が学生と面談する、場合によっては保護者も含めて面談し、勉学に対する意識向上や生活習慣などの改善をアドバイスしている。経済的な理由による場合は、日本学生支援機構の奨学金や企業奨学金を利用するよう勧めている。その他、進路のミスマッチングなどによる退学があるが、学校として、組織的、計画的に退学者の減少に努めている。</p>	<p>3</p>	<p>退学率の低減のために様々な取り組みを行っているが、減少できていない。学生と教員間の信頼関係をさらに構築して行くことで、退学率の低減を図りたい。成績不振の場合には理解度を向上させるため少人数での勉強会を開講することを検討する。また、社会的要因として、自動車整備士の社会的地位や自動車整備士資格取得の重要性の認知度が低いことが勉学を続ける上でネックになっていることも考えられ、大きな課題である。</p>	<p>色々な状況があると思うが、信頼関係の構築が重要かと思う。自動車整備士の社会的地位や重要性の認知度については、学校及び企業で学生たちに上手く伝えて、魅力ある業界となるよう、尽力頂きたい。</p>
<p>4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>卒業生全員の活躍や評価を把握するのは難しいが、企業との情報交換によりそれらを把握するよう努めている。その中で技能競技大会への出場や離職の状況も知ることができつつあるが、全体像の把握までには至っていない。</p>	<p>3</p>	<p>卒業生の活躍を把握するためには、企業との連携を密にする機会を多くする必要がある。また、企業へ依頼し、卒業生の状況について聞き取り調査も行う必要がある。さらに、卒業時に卒業生自ら活躍ぶりを本校に報告するようお願いする。同窓会の協力もお願いしたい。</p>	

4-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	企業に対して卒業生の仕事ぶりや評価などについてヒヤリングを行い、仕事の内容やどのような能力を身につけておくべきかを授業の中で各教員が適宜学生に伝えている。また、1年生全員が授業の一環として4月に各企業を見学し、卒業後のキャリア形成の重要性を肌で感じさせている。これには自身の反省や今後の目標設定等、一定の効果があることが感想文で確認されている。	4	卒業生と接することにより、学校教育においてどのような能力を身につけておくべきだったかなどについて聞き取り調査を行う必要がある。	
--	--	---	---	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・就職率は100%を維持しているが、就職後の離職率が増加している。企業から見た離職の原因などについて学生に対して講演をお願いし、離職率増加に歯止めをかけたい。
- ・自動車整備士の資格取得の必要性を学生に認識させ、さらなる指導方法の改善を図る必要がある。特に、二級に関しては全員取得ができるように、一層の改善工夫が必要と考える。
- ・退学率低減については、ここ数年の大きな課題である。退学理由は様々であるが、欠席による勉強意欲の衰退と経済的事由が目立っている。自動車整備の社会的意義や楽しさを伝えながらも賤教育の両立を検討し、人材育成に努めることが必須課題である。
- ・学生が就活の際に求める要素を調査する必要がある。このデータを就職指導に活かし、企業にもフィードバックすることで就職後のミスマッチを防ぎたい。

参考資料：平成30年度における退学率、自動車整備士合格率並びに就職率

##### 1) 退学率

8.47% (29年度：6.7%)

2) 自動車整備士合格率

一級 100% (29年度 : 52.9%) 2年次修了時に全員二級ガソリン、ジーゼル取得済  
二級ガソリン 96.36% (29年度 : 100%)  
二級ジーゼル 92.15% (29年度 : 89.8%)

3) 就職率

就職希望者に対して 100% (29年度 : 100%)

(5) 学生支援

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
5-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	本校では「進路支援センター」を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人開拓のための企業訪問等を積極的に展開し、多数の求人獲得に努力している。その結果集められた資料は、就職を希望する本校学生全てが自由に閲覧でき、就職活動の指針となるようにしている。また、クラスによって指導内容に差が生じないように担任への就職活動取組指導に努め、担任及び直接の窓口になる教員が面接指導や書類作成に関してきめ細かく指導を行うよう支援体制を整えている。	4	今年度より企業説明会の開催形式を変更し、各企業が魅力をアピールできる態勢を作り、採用試験において特定の企業に希望が集中する傾向がないように努めていく。	
5-2 学生相談に関する体制は整備されているか	学生からの相談は、主にクラス担任が対応するが、相談内容によっては複数の教職員が関わるようにし、教職員間の情報共有を密にしている。また、セクハラに関する相談も女性教職員が担当し、気軽に相談できる窓口も用意され、女性教職員採用で女子学生の相談体制も整っている。	4	現在の取り組みを継続するが、特に、人間関係に関する案件については慎重に対応する必要がある。	
5-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	入学金の減免、授業料の減免、日本学生支援機構等の奨学金制度、企業奨学金制度、学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能している。	4	アルバイトに従事する時間を少なくし、勉学に励める時間を多くするため、奨学金の利用を勧めている。しかし、夜間のアルバイトによる遅刻・欠席の増加、退学など問題の全面解決には至っていない。	

5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	年に一回の健康診断を行い、学生の健康管理は適切に実施されている。異常のある学生に対しては再診することを指導している。	4	現在の取組を継続する。	
5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	課外活動は、授業時間数が多い中では、十分に活動できているとは言えない。しかし、H29年度からエコランについては課外活動として開始し、学校として場所と予算を提供するなど支援体制を整えている。また、顧問である教員の負担は大きい、積極的な活動支援を行っている。	3	学生が自主的に課外活動を提案してきた場合、積極的に支援していきたい。課外活動は同好会顧問のボランティア精神によるところが大きいので、今後は顧問への支援体制を検討したい。	顧問の方への支援は、とても重要だと思う。
5-6 学生の生活環境への支援は行われているか	生活環境改善の一環として、遠隔地出身者について指定民間宿舎を優先的に紹介し利用させており、支援は行われているが、近年、一般のアパートでの一人暮らしが増加しており、規則正しい生活が送れるようクラス担任を中心に支援・指導を行っている。	4	クラス担任を中心によりきめ細かな支援・指導を行いたい。	
5-7 保護者と適切に連携しているか	中間と期末の試験結果を保護者に郵送し、保護者からも学生の生活環境の改善指導をお願いしている。さらに、必要に応じて「電話連絡」により学生の状況を保護者に報告するなど、保護者と学校が情報共有することに努めている。また、今年度よりメールによる出席管理システムを導入し、保護者がリアルタイムで学生の出席を確認できるようにした。	4	可能な範囲において十分な連携が図られており、特に課題を感じていない。	出席を保護者がリアルタイムで確認できるのは、良いシステムだと思う。



5-8 卒業生への支援体制はあるか	卒業後、数年経った離職者に対する就職支援を準備しており、利用者は増加する傾向にある。同窓会事務局を教員室内に設置し、校内にて定期的に同窓会役員会を実施し、総会の案内事務も行っている。また、卒業後の状況についてはインターンシップの訪問にからめて確認し、フォローアップに努めている。さらに、卒業生への活動報告や連絡事項は、本校ホームページ内に開設した同窓会コーナーより発信している。	4	現在の取組を継続する。	
5-9 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	「進路支援センター」を中心に企業ニーズの聞き取りを行い、それをカリキュラムに反映させている。また、職業実践専門課程として企業に授業を実施していただき、企業ニーズを直接学生に伝える企業講習も増やしていけるよう取り組んでいる。	4	企業が気軽に企業ニーズを発することができる体制作りを継続検討する。また、集められた企業ニーズをいかに授業に取り込んでいくかの工夫をさらに積極的に検討する。	
5-10 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	高校に出向いて、自動車整備士の仕事や整備士業界の動向を紹介し、自動車整備の模擬授業も展開している。また、高校訪問を行い、高校側が望む内容で職業教育を実施できるよう取り組んでいる。	4	現在の取組を継続する。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

## 課題と今後に向けての考え

- ・課外活動は、時間的余裕もなく、学生自ら課外活動を行いたいとの要望がほとんど挙がらないことから、実質的にはエコランのみが活動しているが、今年度はメンバーの大半が卒業したため新たなメンバーの募集を行っていきたい。学生フォーミュラについては一級自動車整備科の教員が中心となり授業の一環として準備を行っているが、放課後にも学生が中心となって取り組める環境整備を検討したい。
- ・卒業生支援については、同窓会活動の充実が必要であり、本校ホームページに同窓会ページを作り運用しているが、さらに、Facebook などを活用して積極的に活動を推進して行きたい。
- ・社会のニーズを踏まえた教育環境を整備するため、企業が気軽に企業ニーズを発することができる体制作りを継続検討する。また、集められた企業ニーズをいかに授業に取り込んで行くかの工夫をさらに積極的に検討する。
- ・就職活動を含めた学生相談をよりきめ細かく行っていききたい。

(6) 教育環境

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
6-1 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	施設・設備は、第一種養成施設の指定基準を満たし、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている。教育用機器・教材に関しては、実習計画に沿って年度毎に計画的に購入している。特に今年度は自動車構造の基礎を学ぶ上で最適な車両を購入し、良い教育環境を維持している。また、企業からの教材車両等の提供が増加している。	4	現在の取組を継続する。	
6-2 学外実習・インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか	一級課程のインターンシップは、第一種養成施設指定基準として明確に定められており、確実な成果が上げられている。二輪自動車整備士コースは、学外実習として自動車学校へ行き、二輪車の整備・点検を行っている。海外研修は現在実施していないが、今年度入学生より、2年次にタイ・バンコクへの海外研修を計画しており、2019年度7月の出発に向けて旅行業者と連携し、代金の積み立てや旅行説明会等を実施している。	4	3-6にも記述した通り、二級自動車整備科の学生が希望した場合、長期休暇期間等を利用しインターンシップが実施できるよう、送り出す側のシステムを整えた上で積極的に企業へ協力をお願いして行きたい。	インターンシップを行うことで、社会に出てどのような仕事に就くのかということが明確になり、目標になると思う。また、心構えができるので、離職防止の面からも効果が期待できるのではないかと思う。

6-3 防災に対する体制は整備されているか	災害時の連絡体制については、緊急連絡放送や避難経路・避難場所を各教室に掲示することで対応している。緊急時の連絡体制は学生にも周知しており、また、消防署と連携し学園全体で訓練を毎年実施している。	4	災害発生時の具体的な行動基準を定めた災害対応マニュアルを作成した上で、各自が認識しておく必要がある。	
-----------------------	--	---	--	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・今年度新たに購入した車両や提供を受けている車両も含めて、これらの教材を有効に活用できるよう教育内容の見直しを実施して行く。
- ・二級課程のインターンシップはカリキュラムの中に取り込まれていないが、キャリア教育の一環として実施することの意義は大きい。できれば希望者に夏休み等の長期休暇期間を利用したインターンシップの実施について、企業とも協力しながら検討したい。
- ・防災に対する体制は、消防署立会いのもと学園全体で実施しているが、災害発生時の具体的な行動基準を定めた災害対応マニュアルを作成し、全教職員が認識しておく必要がある。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	具体的な取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
7-1 学生募集活動は、適正に行われているか	H29年度より「募集戦略室」を立ち上げ、高校への募集対策、インターネットを活用した広報活動、留学生受入れ、施設設備の充実、現状分析などの9分科会を設置し、学生募集計画を立案し、従来から存在している各制度の見直しを行うなど環境の変化に適応しながら状況を分析し、学生募集活動は適正に行っている。本校ではオープンキャンパス(OC)に参加した高校生が受験するケースが多いので、OCにおいて本校の魅力や自動車整備士の社会的意義などを伝えられるように工夫している。なお、留学生の受入をH30年度より実施している。入学予定者の10%以内を留学生受入人数としている。	4	県内広報活動の展開に加え、県外にも積極的に活動したい。一級や二輪コースに対する学生募集も課題である。卒業生の活躍をホームページで公表し、同窓会などを通じて志願者を拡大する。現在の9分科会については、活動がいくつか集約されてきており、再構築する必要がある。	
7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	教育成果である資格取得状況や就職状況は、志願者が専門学校を選択する上で大変重要な判断材料であるため、教職員が志願者や各高等学校でガイダンスを実施する際に正確に伝えている。また、このことは、ホームページでも情報を公開している。さらに、教員によるガイダンス実施は、一部の教員ではなく、他の教員も実施できるよう養成を行っている。	4	現在の取り組みを継続する。	

7-3 学納金は妥当なものとなっているか	教育内容や施設・設備の充実度など他校の状況や物価上昇などを勘案して学納金額の見直しを行っており、学納金は妥当なものとなっている。	4	現状を維持するが、増税を見据えた入学金も含めた学納金の見直しも検討したい。	
----------------------	--	---	---------------------------------------	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

### 課題と今後に向けての考え

- ・学生募集については、厳しい状況にある。福岡県専修学校各種学校協会や高等学校進路指導研究会による取り決め事項等を遵守した上で、志願者が適切な進路選択が行えるよう、パンフレットや進路情報企画への掲載、ホームページでの情報公開、オープンキャンパスの開催と内容の工夫、高校ガイダンスへの教職員派遣などにより、さらに広く情報提供を行っていく必要がある。
- ・自動車は国の基幹産業であり、その安全と安心を確保するためには自動車整備士の存在は不可欠であるが、近年慢性的に整備士は不足している。整備士の不足をアピールするとともに、先進技術に対応するメカニックの重要性を強くアピールし、積極的な募集活動を行っていきたい。
- ・ここ数年の学生募集の結果は、18歳人口の減少、若者の車離れ、高校生の就職への好況などが主な原因なのか、満足した数字を残せていない。本校の魅力を構築し、入学者減を解消して行くことが本校の最大の課題である。
- ・教員によるガイダンス実施は、一部の教員ではなく、他の教員も実施できるよう養成を行っており、その取り組みを継続する。

## (8) 財 務

評価項目	具 体 的 取 組	自己評価	課 題 と 改 善 策	評価委員会の意見
8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	財務基盤については、一切の負債を抱えておらず、現在のところ安定しているといえる。しかし、学生からの学納金で学校運営経費が賄われておらず、募集戦略室を設置し、入学者増の策を講じ、実践している。	3	入学者増が急務であるが、社会ニーズに即した適切な定員規模や人員体制の見直し、また、物価上昇や増税を見据えた学納金の見直しも検討したい。	
8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	毎年度3月までには次年度予算を立て、収支計画を行っている。収入に即した支出計画となるよう節約に努め、長期的な事業計画については適切な支出を行っている。	4	現在の取組を今後も継続する。	
8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	顧問税理士の指導の下、定例の会計監査を適正に実施している。監査で指摘を受けた際には直ちに改善を行っている。	4	現在の取組を今後も継続する。	
8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	毎年度の決算については、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照法、財産目録などをホームページに公開している。	4	現在の取組を今後も継続する。	

自己評価点数    4：適切、    3：ほぼ適切、    2：やや不適切、    1：不適切

### 課題と今後に向けての考え

- ・ 学生募集の不調が財政を圧迫しているため、その改善が急務である。
- ・ 退学者減も財政基盤を安定させる大切な要素であるため、モチベーションが低下している学生や休みがちになっている学生の早期発見・対応に努めたい。
- ・ 物価上昇や増税を見据えた学納金の見直しを検討したい。

### (9) 法令等の遵守

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
9-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令や設置基準、監督官庁の許認可などの届出等は適正になされ、それらについては遵守と適正な運営がなされている。	4	法令順守の取組は信頼の基盤であるので、法人事務局や教育現場においても現在の取組を今後も継続する。	
9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報保護の規程を定め、個人情報が漏えいしないよう徹底管理している。個人データの電子記録の取り扱い、紙面による情報の漏えい防止等学校が有する個人情報の取得や利用は、適正な管理がなされている。	4	現在の取組を今後も継続する。	
9-3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	学校や各教員を対象に自己点検・評価を実施し、毎年見直しを行っている。その内容については学校関係者評価による検証も行っている。抽出された問題点は改善し、本校の健全性を保っている。	4	定期的を確認することにより、結果として自己点検・評価のレベルアップに繋がっているため、今後も継続し、精度を向上させていきたい。	
9-4 自己評価結果を公開しているか	ホームページにおいて、自己点検・評価ならびに学校関係者評価の結果を公開している。	4	現在の取組を今後も継続する。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・自己点検・評価については毎年見直しを行い、結果として多くの項目の改善に繋がっているため、今後も現在の取組を継続する。
- ・学校関係者評価においても継続効果が表れており、良い方向に進んでいるため、今後も現在の取組を継続する。



(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を積極的に実施しているか	H29年度より学園祭において『北自大モーターフェス』と称し、国産車・輸入車ディーラー様から様々な車両を出展いただき、学生だけでなく地域の方々にも車両を見学して頂ける機会を設けている。また、英検、公文、自動車整備士国家試験などに試験会場として教室を貸し出し、ハーレーダビッドソンジャパンやボッシュには講習会会場として実習場などを貸し出している。	4	現在の取組を継続する。	
10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	年2回の献血活動を行っている。また、地域清掃活動には全学生が参加している。	3	地域要請に合ったボランティア活動を検討したい。	
10-3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受諾等を積極的に実施しているか	本校への入学者増のために、提携高校を対象に、高校生を本校に招き、本校施設を使用した体験授業実施を計画している。また、福岡県自動車整備振興会の技術講習を北九州分教場として受諾している。	4	提携高校在校生を対象にした体験授業を継続、発展できるよう努める。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・学校の施設貸出等は地域や業界への貢献の一環として、今後も積極的に行っていく。

(11) 国際交流

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
11-1 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	日本での自動車整備士の人材不足を補うことと、東南アジアにおける日本車の進出に伴い母国で必要とされる自動車整備士の養成を目指して、平成30年度に9名の留学生を受け入れた。今後の留学生受入れ戦略は、学生数確保の手段とするのではなく、あくまで世界各国で通用する優秀な自動車整備士の育成に力点を置く。このため、平成31年度入学試験合格者数は3名に絞った。なお、本校学生の海外派遣は当分の間実施しない。	4	実際に今年度初めて留学生を受入れたが、日本語能力・勉強意欲・生活態度などに問題がある者もいる。今後の受入れについては、このような留学生をなくすため、入学試験の選抜方法を検討する必要がある。また、留学生の教育や生活の指導が教職員一丸となって推し進められる体制の構築が必要である。	留学生の受入れ人数としては、今のところ適切な人数だと思う。
11-2 留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な体制が整備されているか	教員室内に国際交流室を設置し、留学生の責任者と担当職員を配置している。この交流室での業務は、在留資格更新や資格外活動に関して適切な指導を実施するとともに毎日留学生が登校していることを確認するなど、適切な在籍管理の体制を整備している。	4	今年度の経緯を見ながら、更なる管理体制を強化する。	

<p>11-3 留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか</p>	<p>留学生の専門科目に対する学修は、教員全員が各担当科目の専門用語を中心に毎週土曜日補講を行うことによってある程度補完している。また、1年次の定期試験には漢字にルビを振り、問題を理解して解答できるように努めているが、2年次は自動車整備士の国家資格取得対策として、ルビ振りは禁止する予定である。留学生の入学手続きが完了した際、自動車に関する基本的な漢字を習得させるため、入学前トレーニングのテキストとその課題を配布し、解答を提出させ、添削を行っている。3月中旬から4月上旬の入学式直前までの間、本校の学則や守るべきルールについて、入学前教育を実施している。留学生の生活指導は、クラス担任を始め、国際交流室の職員がその任に当たっている。特に、アルバイトに時間を割き、成績不良となる留学生がいる。そのため、このような者には、アルバイト時間を半減させるか、禁止する措置を取っている。下宿先は、本校の指定民間宿舎を職員が斡旋している。さらに、留学生が快適で有意義な留学生活が送れるよう、学校内外の手続きや、留学生として知っておくべきこと、役立つ情報などを掲載した「留学生ハンドブック」を作成・配布している。なお、留学生に配布する書類については、できるだけ漢字にルビを振っている。</p>	<p>4</p>	<p>留学生受入れに対する環境整備は整いつつある。しかし、留学生の受入に伴って教員の負担が増加することになるので、役割を分担し引き続き負担軽減に努めたい。</p>	<p>留学生に対して適切な指導が行われていると感じる。</p>
--	---	----------	---	---------------------------------

11-4 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	留学生は、二級自動車整備士の国家資格取得に向けて勉学に励んでいる。この資格を取得することにより、企業への就職が可能となり、国内での評価も高まるものと考えられる。そのためには、専門科目の修得はもちろんであるが、日本語能力試験の N2 レベル取得を留学生全員に義務付けている。	3	二級の国家資格取得に向けた留学生用の勉強会などを2年次の早いうちから実施することを検討したい。また、N2 取得に向け、学内で講習会の実施を検討したい。	
------------------------------	--	---	---	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・平成 30 年度より留学生を受け入れ 1 年が経った。今後はその経験を生かし、教育体制や在籍管理をさらに強化して行きたい。
- ・漢字圏ではない留学生の最大の課題は、漢字の読み書きである。このことについては、時間をかけて習得させる他ないものと考えている。
- ・二級の国家資格取得に向けた対策を早急に検討する必要がある。
- ・すでにほとんどの留学生 1 年生は就職先が内定しており、卒業までに日本でのビジネスマナーも教育する必要がある。